

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	①-11	実施計画番号	74	事業開始年度	平成26年度
事務事業名	健康長寿応援事業			事業終了年度	
担当課名	健康増進課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	第2次健康とわだ21		関連事務事業		
背景や経緯等	健康寿命を延ばし、生涯にわたって健康に過ごすためには、定期的に健診を受け、その結果をもとに日頃の生活習慣を振り返り、健康的な食生活や運動習慣を身につけることが重要であることから、市民の主体的な健康づくりを促進するために実施する。				
事務事業の目的	①健康を楽しもう！とわだエンジョイウォーク大作戦：市民の毎日の生活の中で楽しみながら意識して体を動かすことができるよう運動習慣の定着を図る。 ②健康とわだポイントラリーPART2：特定健診・がん検診受診率の向上を図る。				
実施状況	①夏のとわだエンジョイウォークは、参加者へ事前にアンケートや血管年齢並びに血圧測定をし、当日は官庁街コース、商店街コースに分かれてウォーキングを行った。冬は室内でのウォークを開催予定。参加者へは万歩計や記録表を配布し、運動継続に対する意識づけを図る。②ポイントラリーは、健診を受けるとポイントが加算され、ポイント数に応じて、参加賞や健康づくりに役立つ景品を贈呈する。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	4	3	3
	活動日数(日)	120	105	105
	人件費(千円)	17,280	11,340	11,340
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)		1	1
	活動日数(日)		24	24
	人件費(千円)		178	178

【事業費の推移】

	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)	2,040	2,231	2,231

【指標】

活動指標	活動指標名①		健康を楽しもう！夏と冬のとわだエンジョイウォーク参加者数				
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			人		500	500	
	活動指標名②		健康とわだポイントラリー参加者数				
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			人	1,271	2,500	3,000	
成果指標	成果指標名①		運動習慣定着率(国民健康保険加入者40~74歳の特定健康診査受診者)				
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			%	目標値	38	39	40
				実績値	36	37	
				達成度(%)	95%	96%	
	成果指標名②		特定健診受診率				
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			%	目標値	40.0	45.0	50.0
			実績値	35.8	34.3		
			達成度(%)	90%	76%		

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由	
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 厚生労働省は健康無関心層の行動変容を促す施策について検討し、その結果としてインセンティブの制度化が必要であるとの結論に達している。十和田市においては、健康づくりの事業に参加するのは、もともと関心の高いかたが中心であり、無関心層への支援が不十分であることから行政が事業を実施し、市民の健康づくりに関する意識を高めていく必要がある。	
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2			
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	4	成果向上の余地 2 / 6 健康ポイントラニーについては、平成26年度途中から、エンジョイウォーク大作戦については、平成27年度からの実施であり、市民への周知が行き届いていない現状にある。	
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1			
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1			
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1	3	コスト削減の余地 3 / 6 エンジョイウォークについては、関連事業との連携をとるなど、コスト削減について検討の余地がある。他課で計画済みのイベントについては、積極的に市民へ情報発信していくことで、互いに事業の効率性を高めることにつながるといえる。ポイントラニーは、ポイントの対象となる事業や、景品の見直しが必要である。	
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1			
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1			
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	3	受益者負担適正化の余地 1 / 4 広報・ホームページ等で広く情報の周知をしている。健康づくりは、乳幼児期から高齢期までのすべての市民を対象に取り組んでいる。事業の実施内容に応じて、参加費について検討が必要である。	
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1			
現在の適性					14 / 20	改善の余地	6 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **14** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **6** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択)

有効性を改善して継続

方向性の理由 成果指標に掲げた特定健診受診率の向上のためには、これまで健診を受けたことのない真の対象者へのアプローチが重要なポイントである。健康無関心層へのアプローチを強化するため、①周知方法の検討と拡大 ②魅力あるポイント対象景品の拡充 ③「正しい運動の仕方」について知識を普及し市民の健康教養の向上を図るとともに、対象に応じた運動方法を周知するなど検討と改善を行い、継続していく。
今後の具体的な取組方策と狙う効果 ①エンジョイウォークは、体操や歩くことなど、毎日の生活の中に運動を取り入れ、継続できる市民が増えるきっかけとなる。 ②運動は、糖尿病、高血圧、脂質異常症になるリスクを予防し、健康寿命延伸対策としての生活習慣病の予防につながる。 ③ポイント制は健康づくりのためのインセンティブ(意欲向上や目標達成のための欲を刺激し、引き出す要因)発揮に有効であることから、市民の主体的な健康づくり推進に活用していきたい。